

森ってスゴイ

- 水 -

2日間、口にすることができなかったら命が危ないものってなーんだ？

答えは水です。

この大事な水、森と深いつながりがあります。森は雨や雪の汚れをとり、洪水を防ぎ、使える水を増やす、というはたらきをしているからです。

このはたらきの主役は、いろいろな種類の落ち葉や枯れ木があって、草木におおわれている森の土です。森は木々や草、鳥や動物、昆虫などのすみかですが、そこでは生きることと死ぬことがつながっています。それは、植物が枯れたり生きものが死ぬと、すべてほかの生きもののエサになる、という意味です。

この命のリレーのアンカーは、ミミズやダンゴ虫、菌に微生物などの土の中の生きものです。これらが食べてできたフンが、森の土になっていきます。

その特徴は、ふかふかと柔らかいこと。こういう土には目に見えない小さな空間ができるためです。その空間を水が通るとき、水は汚れが取られて地下へとしみこみ、洪水が減り、使える水が増える、というしくみになっています。

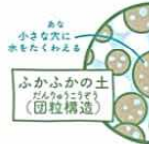
森と水は、たくさんの種類の生きものによって深くつながるというわけです。

文・浜田 久美子

ふかふかになる前の土



地中の生き物たちがふかふかの土をつくる



ふかふかの土（団粒構造）



50年の森林 MAGAZINE

モリマガ 創刊号



伊那市の約8割が森です。そんなにたくさんあるものの、森は身近ではないし、森に親しんでいる人も多くはありません。

伊那市は2016年に「伊那市50年の森林ビジョン」を作りました。

50年のあいだにだれにとっても森が身近で大切になっている伊那市になろう！というものです。学校でも仕事でも、毎日の暮らしに森とのつながりを感じる、生きるベースに森がある未来。どうしたらそうなるのか、みんなで考えるマガジンです。

CONTENTS

森って？ / 森を楽しむ / 森で学ぶ / 森の人にきく
コラム「森ってスゴイ」 / 森へ行こう

森のかくれんぼ
ミツバチが何ひきかくれているかさがしてみよう！
【答えはうら面です】



子ども記者レポート

森へ行こう！ 気軽に行ける森（上伊那）vol.1

市民の森（伊那市）

市民の森の魅力は平らで歩きやすく、自然もたくさんあり、1年中楽しめる場所です。

たとえば、春の楽しみは新緑や野いちご。夏は涼みに森に来るのも良いと思います。秋はもみじの紅葉やきのこ探し、冬は森中が真っ白になる雪景色など、私はいつ来ても楽しく、きれいな市民の森が好きです。初めて市民の森に来るなら森ジョイやたき火の日などのイベントがおススメです。

森ジョイはコンサートや屋台などの森の体験もできるので特におススメです！

子ども記者 ペンネーム ききのさん（11才）

イベント情報はコチラ！→



1ヘクタールは野球場のグラウンドおよそ1個分くらい！

大芝高原「みんなの森」（南箕輪村）

つかれたときや落ちこんだとき、森に行ったらどうでしょう？大芝高原には約40ヘクタールの「みんなの森」があります。その森に入ってみてはどうでしょう？入れば鳥たちの声に包まれ、木々が作ってくれた日かげでとてもおいしい空気を吸うことができます。大芝高原には、遊具や温泉などももうけられているので、日々のつれづれをいやすしてみてください。

子ども記者 ペンネーム 号作さん（10才）



【森のかくれんぼ】答え：7ひき

発行：伊那市農林部 50年の森林推進課 長野県伊那市下新田 3050 番地
発行日：2024年10月 制作：モリマガ編集室 TEL 0265-96-0438（ワイルドツリー内）

小学生記者募集中！
モリマガ編集室までお問い合わせください

森って？

伊那小学校6年智組さんに聞きました

必要・大切

木を植えるのはいいけど、木を育てるのも大切
木を育てるのも大切
木を育てるのも大切

変化がおもしろい

自然で楽しく遊べるたいせつな場所
たじろつな資源

楽しい・遊び

森や林ならではの植物など見られたり、食べたりすることできる

低学年から高学年まで楽しく遊べる

楽しい空間を作ってくれる場所

いろいろなものがないから

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

たからもの

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

思い出

くわの実をとつたりウツドデッキで寝転がったり

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

みんな協力してすごいのを完成させられる場所

たくさんの学びができる場所



森を楽しむ

文・増田ちが



山頂を目指さなくてもいい山登り!?

伊那の入笠山の入り口の入笠牧場から、みんなでティ沢まで「feel度walk」という歩き方で歩いてみました。それぞれが自分のペースで楽しみながら、お気に入りの景色や物を写真におさめたり絵を描いたりする歩き方です。ティ沢では、お地蔵さんや美しい苔を見つけ、一緒に眺め、後で絵にして、何を見たかを振り返りました。

「feel度walk」の面白さは、スピードを上げる必要がないこと。その場にいるだけで、自然を充分に楽しむことができます。自分のペースで観察すると、ふだんは気づかない多くのものが見えてくるんです。山頂を目指すのも良いですが、時にはゆっくりと歩き、周りの自然をじっくり味わってみませんか？



森で学ぶ

文・山本風音



スウェーデンの野外で算数



野外で算数!? 算数って、教科書とドリルで勉強するものじゃないの!? いいえ、そんなことはありません。外に出て自然の素材を使って、五感を使ったり身体を動かしたりしながら、楽しく算数を学んじよう!!



大きさや重さで比べ合っこ



足し算引き算をゲームで学ぼう



1メートルのひもで長さ比べ



1立方メートルを作ってみよう

森の人にきく

in the pond 代表



「人も木も欠点は個性」

ウッドワーカー

池中睦貴さん(1990年生まれ)

池中さんは、家具や小物をはじめ、暮らしの中のさまざまな場面に木を取り入れるウッドワーカーという仕事をしています。一番の特徴は、カビや虫くい、節(木の枝のなごり)など、あるとふつうは「使えない」と言われる木を積極的に使うことです。

「ぼくも変わってるから似たものを感じるのかな。人も木も、欠点に良さがあって。それを個性として引き出せるものづくりをしたいんです」と話します。自分が木のものに触れるとハッピーな気持ちになるので、思わず手が伸びるような、さわりたくなるものを心がけているそうです。もともと林業で木を伐っていたので、いろいろな木に出合いました。ふつうは使われない「変な木」たちを生かせるように、いつか林業とウッドワーカーの両立をすることが夢です。



虫食いっぱいのランプ



↑種類がちがう木は色もちがう



↑手でしあげるスプーン



YouTube

池中さんのお仕事の様子はこちらのQRコードから詳しく見られます。